



ひっぴだより No.5 2017.7.21

明日から夏休み、あ、という間の1学期でした。7月に入ってから急に暑くなりましたね。ひっぴの森でも水遊びが気持ち良さそうでした。

春から夏に向かう季節は子どもたちにとって様々な出会いがあった日々でした。自然との出会い、お友だちとの出会い、どんぐりさんにと、は出会いの連続の3ヵ月。みんなそれぞれのペースでひっぴの森に慣れて、のびのびと思いを表現しているなあと感じています。

森の恵みと共に子どもたちの遊びが活発になっていきました。虫や花、葉っぱや木の実たち。そのひとつひとつに出会い、じわじわ動き、沢山の遊びが生まれ、それぞれに出会いの物語が生まれました。大きいくみの人たちはすぐに森の変化に気づき、遊びの中に取り入れています。傍で見てるとどんぐり目をキラキラさせて真似をして遊びました。

木から長い糸を垂らし、ぶら下がっている「とんくにゃり(尺取虫)」は子どもたちにとって身近な虫。5月のある日の事、英志くんが息をひそめてそれをそーと掴み、その愛らしい動きをじっと見ていました。そこにや、てきた遼くんはとんくにゃりを見ると目がまんまるに！そして勢いよくぎゅーんと掴むと、とんくにゃりがぐにゅ。「あーつぶれるよー」英志くんが思わず声を上げました。動かかなくなったとんくにゃり... しんぼり肩を落とす英志くんの顔を遼くんは覗き込むように見ていました。指先の力を加減しながら掴むというのは難しい事で、まだまだ沢山の経験が要する事なんだと感じた時でした。その後も潰してはお友だちから「あー」と言われていた遼くん。でも、先日遼くんが「みてー!!」と掴んだとんくにゃりは...潰れてない!! 遼くんの笑顔が儼然輝いているのでした。

子どもたちはたっぷりと遊ぶ中で様々な葛藤に出会っています。何度も試したり、お友だちとの関わりの中で乗り越える矢口恵を得たり...模索しているのです。自主的な遊びから生まれる様々な葛藤を見ると、その子にとって必要な困難に出会ったんだなあと思えます。そして、その子のペースで

乗り越えようとする時を、森の緩やかな時の流れと、見守りが保障しているのだと感じています。

先日、5歳になった碧空くんのお誕生会をしました。みんなから「ふらひなあからんたのたのに〜」の歌のプレゼント、白い山紫陽花が飾られたお誕生会ケーキのろうそくに明かりが灯ります。その明かりをうれしそうに見つめる碧空くん。そしてろうそくの火を吹き消す時、碧空くんはうれしくてうれしくて笑ってしまうのでした。だから火も消えないのです。それを見つめるみんなはなんともいい笑顔。ろうそくの暖かな光の中でみんなのうれしい思いがあふれています。

「ろうそくさん、どうかこのまま消えないで...」と思うくらいにすぎな時間。こんな暖かな時に出会い、みんなが喜び合えた事もうれしかったです。

この1学期も子どもたちの園生活を支え、見守り、下さ、てありがとうございました。夏休みも楽しく、元気に過ごせますように... また2学期にお待ちしています

(愛子)

ひっぴの森の木の実たち 7月 クマイチゴ

ブルーベリーにマルベリー(桑の実)、様々な木いちごがなる季節になりました。ひっぴの森の周りでも何種類かの木いちごをみる事ができます。今月ご紹介するのは「クマイチゴ」。クマが食べるのか? って? はい。クマさんにはベリー系が大好きなんです。今の時期、朝夕、薄暗い時間や、ひとけのない時、いちご摘みにいくのはご用心!! です。クマさんといちご合わせしてしまうかもしれませんから。

絵本などではよく、小さな女の子がカゴをもって森の木いちご摘みに出かけたら子グマちゃんに出会って... なんてシチュエーションがありますが、この単元#沢にもクマは住んでいるので、そういうこともありうるのです。クマは、山菜、イタゴ、山ブドウ、はらみ、どんぐりなどを食べて暮らし、人を食べることはありませんが、突然、人に出会うとびっくりにして、(又はわが身を守るように)人間に危害を加えてしまうこともまれにあります。木いちごを摘みにいく時は見通しのよい所や、下草でにぎやかにはかかるとよいですね。

とはいえ、絵本の女の子のようにひっぴの子どもたちも、私もキラキラ光る赤い宝石のような甘酸っぱいいちごをみつけるとつい夢中になってしまいます。木いちごは赤だけでなく、黄色、黒、ブルーと様々な色、形、味があります。



「きいちごだより」(福音館)という素敵な絵本があるので、お天気のよい日、絵本とかごをもって森に散歩に出かけてみてはいかがでしょうか? あ、クマはカゴももっていて下さいね! : 菜々魚

① おおきいくみだより... 

はいはい 夏休みに入ります。4月からの4ヶ月、おおきいくみの人たちは着実に確実に おおきくなっていることを感じます。春、マラソンに一步 踏み出せた人が 今では仲間たちと走ることを楽しんでます。田んぼに 一步 踏み出せた人が 今では泥んこになって お仕事をしています。

お出掛けも 集団遊びも 製作も 森の時間も 劇遊びも……。

おおきいくみの一日の中で自分の楽しみを見つけ、仲間と笑いあい、喜びあい、いろいろな姿を見せてきた おおきいくみの子どもたちです。

今月初旬、えりんご体操がおおきいくみ日になりました。いつもはびっぴの日に行っている えりんご体操ですが この日はメインホールの関係でおおきいくみ日に行くことになっていました。せかくのおおきいくみ日。いつも違ったえりんご体操に行く方法を考えました。えりんご体操は、まっぼくり→くり→おおくりの順番で行います。いつもは、前のグループが終わる頃の時間を見計ってスタッフが次の学年を集めて、トシの声かけ、支度の声かけ、点呼をとってメインホールへ一緒に向かい時。でもこの日は 真夏の集まりで こんな提案をしてみました。

「今日は、おおきいくみ日だから 自分たちで支度して、自分たちで人数 数えて集まったら 自分たちでメインホールへ行って いうのは どう?!」

まっぼくりさんは 一番手なので えりんご体操にやる スタッフと一緒に出発してました。

残ったくり、おおくりさんは はりきって 「いーよー!」と OKの返事。

時間になったら スタッフは 声をかけただけにしてあとはすべてお任せ。

まっぼくりさんの終わる時間に合わせて くりさんに声をかけました。

すると いつも通り びっぴの入り口に集まり、自然と誰かが点呼をとりに始めました。「あれ?足りない?」「1,2,3,4...あ、ちゃんと9人いた!」とみんなが確認して「いってまーす」と出発して行きました。そのあと こっそり様子を 見に行くと見事です。靴の中には 靴下がちゃんと入って、下駄箱にキレイに靴下が並んでいます。そして扉の前で体操座りで待っていて まっぼくりさんとバトンタッチして入って行きました。

えりんの体操を終えて出てきた まっぼくりさんにも

今日はさ、おおきいくみ日だから 自分たちで靴下はいて、靴をはいて、みんなが揃ったら みんなで一緒にびっぴに戻っていく、というのはどう?!」と提案してみました。

もちろん返事はOK!! スタッフは先に戻り、スタッフ荷物置場から こっそりメインホールへ戻り、待っていました。すると「行くよ!」の声とともにみんなが揃って出てきました。カリシモの親子みたいにさうと並んで、「ただいま〜」と誇らしげな顔!!

おおくりさんへの声かけも最小限。「時間だよー」と声をかけただけです。

やっぱり、おおきいくみて あざい! 「大人がいなくても大丈夫」「私たちができよ」「私たちに任せよの気持ち伝わってきます。

そして先日の田んぼのお仕事に出掛けた時も スタッフ全員、田んぼの草取りに全力投球!

おと子どもたちは「夕べがなーい」「着替えたー!」と大人の手を必要としながら 大人が仕事をしている姿が見えているので「仕方ない、自分でせう」と意を決すのかな。

自分でおおきなバックから着替えを出したり、ゼニシ感に汚れたものを入れたり……。本当に困ったら 助けをもらえる。だから出来るように自分でかえはる。そんな姿がありました。

1学期が終わります。「自分たちで出来るんだよ」「もう小さい人じゃないよ」という自信や自負をたくさん感じました。だからこゝろ「生かしてあげよう!」「さ、大丈夫」という思いもたくさん生まれてきました。休み明け、みんなに会えるのかは、楽しみにしています。美穂心

一学期エピソード集 (文中敬称略、「ス」はスタッフの略です。)

・どんぐりさん二日目、それぞれ大きい人たちの真似をして遊び始めています。春音はカップの中の泥を渾と同じように混ぜ、遼は葉っぱをちぎってカップに入れ、隼人はそれがほしくて取るうとして、颯希に「かーしーて! って言うんだよ。」と教えてもらって「かーしーて。」と繰り返す。おおくりたちがトンカチを使っていた時も隼人「かーしーて!」礼「トンカチは大きい人だけなんだー。」隼人、大泣き。大きい人と同じことがやりたくてたまらないどんぐりさんたちです。

・帰りのくり・おおくりの集まりで、ス「おおくりになって何が楽しみ?」おおくりみんな申し合わせていたように「大きい氷砂糖!」笑ってしまいました。ス「じゃあ、くりさんは?」バラバラだけど「キャンプ!」「キャンプ!」「キャンプ!」…もう聞いているのですね。おおきいくみのこの一年が本当に楽しみです。

・おおくり雑巾づくり
ずっとしゃべりっぱなしのぞうきん作りでしたが、今年は器用な人が多かったです。最初に女子からやりました。咲美・手先は器用です。だまって作業しています。スムーズな作業でした。
果乃・ずっとしゃべりっぱなし。でも手先は動いていて器用。食事と同じ。
颯希・ずっとしゃべりっぱなし。食事と同じでなかなか進まない。でも面白い。
立・丁寧。器用。ずっとしゃべりっぱなしの人たちに答えていていちばん最後までかかる。でも一人になってやっていたら「俺がおおくりの中で一番うまいでしょ。」と誇らしげ。
大權・器用なのに集中力が切れてきたらちよっと雑になってくる。おしゃべりも影響してるだろうけど。お弁当後にもう一度やる。
礼・手先は器用なのにしゃべりっぱなし。おしゃべりにつられている。
空太・ふざけ鬼が出てきたらしく賑やか。でも一番手が動いているし、丁寧にできていて縫い物も好きみたい。「ああ〜楽しかった」とさっさと完成させて一番に出ていく。
とやっぱり面白いおおくりさんでした。おおきいくみ1日目は、ちゃんと「おおきいくみ」でした。

・田んぼで渚に、ス「ヨモギ団子美味しいよねえ。きな粉つけたりあんこつけたりして食べるんだよ! っぱい食べたから、沢山摘もう。」と話す、目と鼻が広がって、なぎも〜と沢山摘んでいました。一方で、沙希と友佳梨は声を掛けると少し摘みましたが、すぐにタンポポ摘みへ。真永は羊のエサやりに夢中。タンポポを両手いっぱい摘んで「羊さんタンポポ好きなんだよ。」「あんず〜!」と叫んでいました。そんな3人組に、渚は「ヨモギ団子沢山たべたいでしょ〜、とってよ。」と一生懸命言っていました。

・悦己がよく登っている斜めに生えた幹で切られた木で、立「おれ登れないんだ。」と悦己に言いながら登ろうとしている。悦己が足をかける場所を教えている様子。立チャレンジ。うまくいかない。悦己「やり方みせてあげる」と代わろうとするが、立が粘って一番上まで登れた。立「初めて登れた!」と笑顔。思わず、ス「初めてできるって嬉しいよね。やったね。」立「えっくんに教えてもらって初めて登れた」「えっくんてえらいな。」と言っていた。おおくりなのに登れないのと馬鹿にしたり、おれできるよと自慢だけだったり、年下の子ができるのに恥ずかしい、教えられたくないという気持ちが無く、教えるときは姿を見せると分かりやすいと思っているんだな。と思って見ていました。できないと言える。年齢関係なく素直に教えを受け、そして相手のお陰で出来たと言える。

・凜が「鬼をやっつけようえいえいおー!」と言って行ったり来たりしている。側にいた絃に、ス「鬼がいるんだって行ってみようか」と聞くと、「おー。」と言って凜の後を追う。凜は森の奥にあった穴に棒をさして鬼をやっつけている。絃も真似をする。すると、凜が「キヤー」と言って走って逃げ、「まだいる?」と戻ってくる。そしてまた穴をつつくということを繰り返しやり始める。絃も真似をして後を追いつづける。春音が来て「春音もやっつける。」と3人で繰り返し行ったり来たり、春音は笑顔。その後、凜が集まりの場所へ移動すると絃、春音もついていき、凜が先生役で集まりが始まった。♪歩こう歩こう私は元気〜と歌いだし皆で歌った。どんぐりが自分の世界から、徐々に周りに開いていき関わりが生まれていくこと、その遊びの面白さに驚きます。

・笹の葉のお金を使ってお団子屋さんをしていた礼、空太、果乃。空太が団子にかけていた粉を「金の塩いりませんか?」と周囲に売り歩いている。白い石と石をこすりあわせて作った粉にはピカピカ光る金色の砂が混ざりとてもきれい。「これかけるとなんでもおいしくなる。」と聞いて、近くで海賊船に乗っていた真永の目がキラキラ、笹の葉10枚、10万円で買えますと聞いて必死に集めている。同じ船に乗っていた穂岳は「近くのお金の畑でお金とってこよう。」と笹畑?に出かけ「大金持ちになった!」と帰ってくるのがおかしい。

・松とくりの女の子たちの今のブームは、シートをスカートにして縄飛びで縛ること。松は横にしてスカートにしています。澄伶「いろはちゃんみたいに縦にして!」縦という言葉で表現していてびっくり。みんなが腰に巻くので、縄飛びを使いたい人たちが使えなくて困っています。片付けの時には「青の縄飛びがありません!」と探している真永の身体に結びついていて笑ってしまいました。みんなで今かかっている鳥の巣箱を見に行った時、始まってすぐに沙季と折さくらがおうちごっこを始める。声をかけると「嫌だ。」と沙季。それを聞いて折さくらも「嫌だ!」そして二人顔を見合わせて「嫌だよねえー。」とニヤリ。まつぼっくり女子、同じことをするのがとにかく嬉しい様子です。

・駐車場近くの大きな岩の上で羽路斗・悦己・橙李が登ってロケットごっこ。羽路斗「橙李が運転手だよ!5,4,3,2,1わあ〜発射だ〜飛んでるよ〜!わあ、着陸しちゃった〜。」羽路斗の発想が面白い。今度はみんなを下に降りてロケットの点検。悦己「ああ〜、ちよっとネジがゆるんでるね〜。」橙李「いま、電話したから。」「羽路斗「ああ、ロケット屋さんにね〜。」橙李「そう!」三人で会話が弾んでいる。そのうちに橙李が前方を指差して「みて!○○!!」早口になりよく聞き取れない。羽路斗と悦己がえ?と橙李を見ると橙李再び「みて!○○よ。」と言うがやはり聞き取れず。橙李、少し苛立った表情を見せて何か言いかけたがそこで悦己「は〜い、橙李〜直ったよ〜。」とちよっと気の抜けた感じで言うと、橙李も気持ちを切り替えて大急ぎで石の上に登って行き、ロケットごっこが続きました。

・どんぐり初のお掃除の日、まずはテーブルを大きなタワシでゴシゴシするまつぼっくりさんたちのお掃除を見学。「今日ではどんぐりさんたちに教えてあげてね。」と声をかけるとキラキラの目になる澄伶。ほかのまつぼっくりもいつもよりテキパキ動いている?少し見学するとやりたくてたまらないどんぐり達。小さなタワシを一つずつもらうと早速バケツの水に自分でつけてゴシゴシ始めている。湖雪は始め紐を持ってタワシをブラブラさせていましたが、大人と一緒に持つと自分でも嫌がらずゴシゴシ。まつぼっくりが片付けを始めても、絃、春音、遼はゴシゴシを続けている。来週からどんぐりだけでもしっかりお掃除できそうです。

・まつぼっくりだけの田んぼの一日、水を入れた田んぼの迫力?にびっくりしている人もいて、沙季「田んぼが海になっちゃった。」英志「ここにプールあったっけ?」澄伶「プールじゃないよ!田んぼだよ!」午前中は田んぼの周りを歩く。カエルやアメンボ、ゲンゴロウに「いたよー!」「どどここ〜」と生き物との出会いが嬉しい。英志はアメンボの発音が難しいらしく「アマエンボー」と言う。玄太はタンポポの茎を魚釣りの竿にして水路で魚釣り。そこにいた折さくらや、友佳梨も真似をする。玄太が露の葉を傘にすると、みんな真似をする。みんな葉っぱ傘を持って散歩に出発。なんでも『おんなじ』が嬉しい。誰かが何か見つけたら「なにになに?」とみんなが覗きこみ、誰かが誰かとささいなことでもめたり泣いたりすれば、「どーしたの」「泣かないで口で言ってごらん。」と全員で関わる。友佳梨「あ!これヨモギだよね。」沙季「ここにもいい匂いの木がある。」(山椒の木の赤ちゃん)色々な物を見つけるまつぼっくりの目は確かです。おおくりの電車に手を振るが、玄太は全ての電車にお兄ちゃんに乗ってると思っているようで「空太今日すごい電車乗ってるね。(僕が)弁当食べてる時も乗ってたし、食べてない時も乗ってたし。すごいよね!」と言う。可笑しかった!

・お散歩。帰りは危険コースと安全コースに分かれる。植さくらが「帰りはここから帰ろうね。」と危険コースを指差している。今回は選べるようにしました。渚も自信があるようで「なーちゃん、おしりですべるから行くよ!」と植さくらの提案にノリノリでした。もう少しすると草が鬱蒼と生えてきてしまうので通れなくなってしまう…今はまだまだみんなのお尻すべりのあとが残ってるのでそれをみたら、頻繁にここを通過して「獣道」を作っておいたらいいかも…と思いました。

帰ってきてお尻が土だらけの人がたくさん、自分から着替え始めたのが穂岳、大夢、橙李。穂岳は、「ズボンがない!」と大騒ぎ。ないはずはないよー探してみても「ズボンがない!」と大きな声で訴えます。見に行くとちゃんと何枚も入っている。「目が節穴ですね〜」と伝えると「穂岳、目に穴はあいてないよ。」そんなやりとりを見ていたらしい橙李は、ズボンを自分で出して履き替えました。橙李「橙李、自分で探してでしたよ。」探すとあるよね〜」なんて話しながら嬉しそう。

・どんぐりの帰りの集まりに、一人だけいない春音を探しに行くと、森から歩いて来た。ス「お迎えに来たよ。」二人でちよつと歩くと、まつぼっくりさんが集まっている所。春音「今日はまつぼっくりさんにする!」澄伶や沙希も「いいよ〜。」ちよつと待ってちよつと待って!あまりにも伸びやかな女子たちでした。

・田んぼ代掻き。どろんこ運動会の種目決め。礼・大樫からの提案いろいろ。「どろんこかくれんぼは?」大夢・咲美の「いいよ!」の声が消される位に果乃・颯希の「え〜っ、やだあ〜!」の声が大きい。代掻きが始まりました。強い日差しで、ズボンをめくりあげる状態で泥に入り始めました。礼が上衣を脱ぎ始めると、空太も脱ぎ、空太がズボンも脱ぐと澄伶「すみれも〜!」昨年入らなかった沙希・真永・玄太、羽路斗も普通に脱いで歩き出しました。どろんこ運動会の時には、綱引きもリレーも楽しみ、泥んこになっていました。何かのこだわりから開放されたようで、すごい進歩。どろんこ運動会でなんとってもすごかったのはどろんこかくれんぼ。「絶対、やだあ!」と言っていた人たちはみんな泥田んぼに並んで座って応援団。どんなふうに隠れるのかとスタッフの鬼は数えながらワクワク。後ろを振り返ると全員みごとに仰向けで寝ています。大夢・大樫・空太・咲美・礼・玄太・橙李、みごとに目を閉じ、じっとしています。礼は顔も真っ黒けで泥田んぼに一体化していました。

・日に日に森に虫が増えてきて活発に動き出し、わからない虫がいると友だちが「碧空く〜ん!」と呼びに来ることが増えてきた。碧空の出番はたくさんあって、その度に「アカスジカメムシかな。」などと答えてくれます。田んぼでは、オタマジャクシからかえったばかりのような小さなカエルがいっぱい、みんなカエル探しに夢中。さすが碧空は見つけるのも速いし、捕まえるのもうまい。みんなが1匹を手の中に入れて喜んでいる時に、碧空の手には5匹位。猛さんからはカブトムシの幼虫をもらいました。集まりになり碧空はそのまま行こうとしたので「幼虫さんは土の中にいないと大きくなれないね。」と話をすると「お家に帰してあげる」といって土の中に埋めた。その後もミミズを見つけしばらく興奮気味に触っていたが、再び「お家に帰してあげよう。」と言って自らミミズを放していた。碧空の中で生き物との向き合い方が変わってきました。

・咲斗が縄跳びで電車を始めたので、ス「お乗りの方はいらっしゃいますか」と声をかけると遼、絃、凜が乗りました。凜が興味に従って激しい動きをして電車が崩れそうになりつつも、咲斗がしっかり先頭を引っ張り、草の中や橋を渡る面白いコースで森の端から端まで遊びが続きしました。以前も同じような場面があり、各々が自分の気持ちのままに動いてすぐに遊びが終わっていたので、それから仲間と関わって遊んだ経験の積み重ねを感じます。海賊船駅でみんなが降りると絃が犬になり、咲斗も真似て犬に。遼がご飯を作り二人で食べ遊びが展開していました。

・何人かでお家ごっこをしているところから、羽路斗、天音の大泣きの声。周りの人は心配そうに見ている。事の成りゆきを見ていた様子の空太「なんでではるびんは叩いたの?」、羽「だってあまちゃんが嫌なこと言ったから!」、空「それならはるびんも叩くんじゃなくて言い返せばいいのに。」はるびんは何も言わず泣き続ける。すると今度は颯希が「一人ずつ話を聞くからね。」と仲介に入っていた。そして最後には「お互いに嫌なことしちゃったんだから、お互い様ってことね、そうでしょ、よく考えてみて。」と言う。一生懸命さが伝わってきた。その後羽路斗は天音の手をとり握手を求めていた。「ごめんね。」の思いだったのだろう。ぶつかったあと投げ出すのではなく、それぞれのやり方で相手と向き合っていました。

・散歩での崖登りに、遼、春音、咲斗、絃、湖雪もチャレンジ。最後の急な所で、遼「誰か助けてー!」とレスキューを呼び、咲斗は無言でがんばって登りきり、ふたりは達成感あふれる表情。春音は助けてもらうこともありましたがお尻滑りをする人を見て自分で滑り降り、絃はフンフンと上手に泣きべそをかいて礼や大樫に甘えて手伝ってもらう。

湖雪も「こわいの。」と言いながらも時間をかけてお尻で滑っていました。

・郁絵さんのアートの時間。郁「太陽はどこにある?」植さくら「あそこ!」郁「え、どこ?」穂岳「あの雲のところ!あ、後ろにせみのぬけがら!」郁「ほんとだ〜。」「今日は雨は降っていないけど、みんなで雨を降らせてみようと思います。」天音「やだー。プール行けなくなっちゃう。」郁「でも雨が降らなかったらどうなる?」植さくら「田んぼの稲がどんどん大きくなる!」郁「雨が降らなかったら田んぼのお水もなくなっちゃうよね。」羽路斗「かえるとかおたまじゃくしの元気がなくなる。」大夢「あと、へんな生き物!」穂岳「アメンボとか!」郁「あと前に蒔いた種も芽がでなくなっちゃうんだよ。雨はとつても大切。だから今日は雨を降らせようと思います。」天音「じゃあ、あたしはちよつとだけ」雨を描くということにもたくさんの言葉のやり取りが出てくるくりさんたちでした。

・土砂降りの日。雨の中やってきた春音「雨でうれしい!雨の中で遊びたい!」とやってきました。まだ入園間もないのに遅しい。礼「自然に川ができています!」そこで玄太、春音、蓮花、菜子、湖雪が川渡りを始めました。朝、車から降りたくなかった隼人も、ス「川が出来ているんだよ、一緒に渡ろうよ。」と話すすとんがり降りてきました。大雨でいつの間にか川が池になり「チョコレート温泉」に何人もが浸かっています。咲斗や絃も顔を泥だらけにして入っていました。じーっとそれを見ていた翔々は何かの弾みでそこに入ってしまっぴっくりした表情で必死に出てきました。でも一気に泥だらけになったことをきっかけに、シャベルとバケツを持ってきて水溜まりに入り、泥遊び。大樫はその池が深いことを、中に入って見せて教えてくれている。小さな板に乗ると沈んだので、ス「大きな板だったら浮かんで乗れるかな?」と話していたら、大樫が「いいものがある!」と走って行って大きな板を持ってきました。大きな板は一瞬乗れたけれど、すぐに沈んでしまう。大樫が勢い良く飛び乗った時、水の上を板が滑り、大樫は泥の池にパッシャーン!!顔まで泥だらけ。顔を洗った後も大樫は引き続き船に挑戦。たらいはどうか?と持って来てみると、一寸法師のように乗ることができました。その後、翔々もたらいに乗ったり落ちたり全身泥だらけ。天音と礼は2人乗り。二人乗りは不安定で、大きく揺れて泥水がたらいに入る。最後はわざとたらいを揺らして、泥の中に落ちるのを楽しんで、みんな泥だらけに。雨でもみんな本当によく遊ぶ!泥々のお着替えの一日となりました。

・いろはと果乃が、全身ドロドロになりながら池から泥を汲んでチョコレートソースを作っている。興味津々と横で見ている絃。時々手を出し、ひっくり返したりぐちゃぐちゃにしてしまうので、いろは「あー混ぜないでー。」「そこに入れてほしくない…。」果乃に「はっきり言ってじゃまー。」ときつい言い方をされても、ニコニコ楽しそうな絃。果「どんぐりってじゃまだなあ」ス「でも果乃ちゃんはどんぐりの時どうだった?」「ぐちゃぐちゃしてした!覚えてるもん、すっごくきれいに作ってあるのぐちゃぐちゃってするの楽しかった!」ス「その時おおくりさんすごく怒ってた?」「そうでもないかー。」いろは「仕方ないかあー。」歴史は繰り返す。じゃま!と口では言ってもやり続ける絃を受け入れている、いろはと果乃でした。

・暑い日、プールでみんながわいわいと水遊びを楽しむ一方、森の中では静かに遊ぶ玄太、菜子、隼人。地面をのぞきこんで、みんなで一緒に虫を見ている。海賊船では湖雪が、なにやらたくさんおしゃべりしている蓮花の話ニコニコ聞いています。それぞれが静かな森の中で安心して遊ぶ、柔らかい表情がありました。

・熟れてきた桑の実を食べ出した礼・咲美・颯希・果乃・立・植さくら。咲美「向こうの桑の木は実がなってるかな」の声に、みんなで移動しました。その木は去年の咲美の「わたしの木」でした。その大きな木は、たわわにみごとな実をつけていて、みんなで「わあ、すごいね〜」としばらく上を見上げ見とれていました。高過ぎてほとんどの実は届きません。そのうち交代で木登りに挑戦を始めました。礼しか登れませんでしたが一番目の枝分かれまでしか行けません。みんなが「(実を取るのは)無理かあ」と諦めて、向かいのロープ遊びが始まりました。咲美「さとちゃんの私の木をやっぱりこれにする、決めた木にあやまってくる。」と言い、さあつと行ってしまいました。まもなく紐付き札を手を持って戻ってきました。ス「へびちゃんは何て言ってた?」咲美は嬉しそうに「いいって!」とその札をクワの木にかけ紐でしばりました。咲美「くわのみくんって書いてくれる?」と走ってマジックを取りにいきました。

・初めてどんぐりさんもリュックにおにぎりを入れて、浅間絶景からもみじ谷への一周コースへのお散歩に。出先で



ひらびたより

No.6 2017.8.22

今年はどんな夏休みになりましたか。きっと子どもたちは、ご家族の方、ご親戚の方、ご友人の方と、過ごした嬉しい時間もあったのだらう。「今」「この時」この年齢、だからこのことがいろいろありね。その時々、その子どもたちの在り方を、ご家族の方と共に、喜ばしい、笑ひ、時に悔み、感謝しながら過ごす2学期になりました。

・森づくり 8/27(日) 9/10(日) 9時～お昼頃
* 作業内容は、黒板にてお知らせいたします。
* ご参加いただける方は、お知らせ下さい。ご協力を願います。

・継続説明会 8/29(火) 追分公民館 9時30分～
一人ひとりの在り方を大切にしながら、年齢の発達をふまえて、主体的・対話的な学びをどう実現していくか、具体的な保育内容を通して、お伝えしたいと思っております。
* 当日、継続申込書を配布いたします。
* 駐車スペースに限りがありますので、乗り合わせや、追分駐車場のご利用にご協力を願います。

・入園説明会を 9/2(土) 10時～ ひらびの森で 行います。お近くは、2015年4月～2016年3月生れの方がいらっしゃいます。お誘いいただけますとありがたいです。お申し込みが必要であることを合わせてお伝え下さい。

・清里キャンプ説明会 9/22(金) 9時30分～ バイブルキッズホール
* くり、おおくりの保護者の皆さまは、ご参加ください。

・ズリんこたけ 9/5(火) 9/26(火)
* ズリんこたけは、様子をお知らせから参加していただけます。
* 靴下や上着を脱いで参加します。

・9月は、来年度入園希望の方たちの見学が続きます。どうぞお声をかけてあげて下さい。お願いいたします。

・箱入りは、箱の状況をみながら、9月末から10月初め頃に行います。急なお知らせになると思っております。ご理解をよろしくお願い致します。

・おおきくおの予定

8/24(木) まつくり・くり は 田んぼ保育
おおくり は お出かけ (別冊に配布)
* いづれも雨天は ひらびの森での保育を行います。

8/28(月) アート日

8/31(木) 田んぼ保育

9月のアート日 11日、25日

9月のそれ以外の予定は、改めてお知らせいたします。

・ほっけ実施日 23日(水) 25日(金) 28日(月) 30日(水)
9/1日(金)
(24日)(31日) は、お出かけ中止時実施
* 9/4～の予定は後日、お知らせいたします。

・9月の小さな茶会

9月は金色に色付き始めた稲穂を見ながら田んぼの個性散歩。羊とふれあい語り合う「羊カフェ」を田んぼで開催します。

日時 9月12日(火) 9時30分～ 田んぼにて

担当 齊土美和子

持ち物 お弁当、雨具 (小雨決行)

定員 10人前後

申し込みは <https://motipippi.jp/salon> まで。

8月も末になると朝晩冷んやりした日も増え、秋を感じるようになってきますね。虫の音が夜に増えてきてくると、ああ、夏もおわたのだからあ...と思います。とはいえ、最近はまだ暑さが厳しい時もあり、まだなかなかほっとできない日々ですね。でも9月に入れば、少しずつ木々が秋への準備をはじめ、紅葉・実りの秋がはじまります。

「紅葉」といえば、まずまず先におもいっくのは「もみじ」の葉ではないでしょうか？ その「もみじ」、今どんな姿かという、まださすがに葉は緑色ですが、よく木の下にいてみると、プロパネ型の薄ピンクの実が、いくつもいくつもぶらぶらついで、実りの秋への準備を進めています。

もみじの仲間には葉の形にはたごさんあって、一番よく目にするイロハモミジは葉のきれいな「い・ろ・は・に・ほ・ん」とも呼ばれるので「イロハ」もみじといいます。今度ぜひ、はらばらをつけたら、教えてみて下さいね。程が薄ピンクから茶色く固くたまってきたらプロパネも真ん中で2つにわけて高いところから落とすと落ちてみて下さい。風によってくる・くるくる...その姿は大人も子どもも大喜び♪ ひびの森にもたくさんいろんな種類のもみじがあるので、ぜひこの秋、紅葉を愛でつつ、楽しんでみて下さいね！

「葉の裏」

